



# 『活きている ことわざ』

【事務所】

船橋市議会議員（無所属・5期）

船橋市前原西8-24-8

神田廣栄（かんだ ひろえい）市議会報告

☎047-490-3333

Fax 465-7117

【所属】市民民主連合・文教委員会 Eメール [hiroei@muc.biglobe.ne.jp](mailto:hiroei@muc.biglobe.ne.jp)

【役職】予算決算委員会委員長 ホームページ <http://www.hiroei.jp>

## 言うは易<sub>(やす)</sub>く行うは難<sub>(かた)</sub>し

◇口で言うのは誰でもできるが、実行するのは難しい、ということ。

《類句》口では大阪の城も建つ。

《同義語》言うは行うより易し。

第3回定例会の一般質問の一部からご報告いたします。

今日も学校行けないな

### 《教育委員会に問う》

①以前から、ずっと以前からありましたが、最近盛んに報道されている「ヤングケアラー」について質問しました。

「ヤングケアラー」の定義は、日常的に世話をしたり介護する家族がいることにより、勉強や運動をする自分の時間を取れない子供たちのことです。家族のために食事を作ったり、掃除や洗濯などをするために、睡眠時間も少なくなることもあります。

船橋市では、子育て支援部子ども政策課が、今年の5月に小学4年生から高校3年生までの49,555人を対象にWEB上のアンケートフォームで27の設問を設けて調査を行いました。対象者のうち22,764人が回答し、その4.8%にあたる1,084人が「世話をしている家族等がいる」と回答しました。

松戸市長は会見で「一律に支援すれば解消するという問題ではなく難しいが、これだけの数があると分かった。何らかの手立てを考えていく必要がある」と述べられました。

私は、回答割合が約半数だから、実数は倍の2,000人くらいはいるのではないか、子育て支援部も方策を考えておられると思うが、子供たちは学校に通っている。まずは学校ではないかと思っている。学校イコール教育委員会だから、教育委員会として「ヤングケアラー」対策をどのように考え、行動していくのかと伺いました。

学校教育部長は、

「ヤングケアラー」への対応については、喫緊の課題だと認識しています。教育委員会としては、令和3年9月から一人一台端末に「そうだんしてね」というアプリを作成し、市の相談窓口等の紹介をしています。その中で、令和4年2月には、アプリ内にヤングケアラーに関する啓発資料や相談ダイヤル等のリンク先等を掲載し、周知・啓発に努めているところです。



また、夏季休業前には、児童生徒の安全確認等とともに、ヤングケアラーへの学校職

員の対応についても周知したところでは。

ヤングケアラーへの対応は、児童生徒に近い存在である教職員が、日頃から児童生徒の観察や教育相談等を通じて、児童生徒の悩み事や生活環境の変化について早期発見に努めることが大切であると考えます。そしてヤングケアラーと思われる児童生徒の困り感に寄り添い、プライバシーに配慮しながら状況を把握し、全職員で情報共有するとともに、必要に応じて関係機関と連携していくことが大切であると考えます。



と答弁されましたが、ヤングケアラーの子供たちは日々の生活に追われているし、一刻の猶予も許されない。言葉でなく行動することが一番だと思っています。

介護している中には簡単に入り込めません。衣・食・住の全てに応援すべきと思いますが、分けて考えて、まず「食の部分」にお手伝いをしていこうと思います。

②平成25年10月から9年間の長きに渡り、市の教育行政のトップを務められ、10月14日に勇退される「松本文化(あか)教育長」に、長い教育現場と教育長としての経験を通して、全ての子供たちに、今伝えたいことを伺いました。

松本文化教育長は、ある中学校のホームページに載っていた、中学生の総合体育大会の前に行われた選手宣誓の言葉を紹介した後「今年の中学3年生は、日本の学校教育の歴史において、異例とも言える6月の入学式から中学生生活が始まり、我慢することや

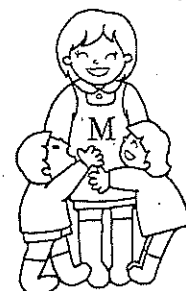


耐えることの多い日々であったと思います。しかし、総体が行われている各会場では、練習したくてもできない日々を乗り越え、流れる汗をものともせず、一所懸命に全力を出し切って試合に臨んでいる3年生の姿を見ることができました。今年の夏も、幸せなことに子ども達から、数々の感動と生きる喜びをもらいました」と話されました。

以下、教育長の言葉を原文のまま書きました。

子供達は、どの子も無限の可能性を秘めています。この子供達に伝えたいことは、めまぐるしく変化する社会にあって、どのような社会になろうとも、その社会に対応し、夢や希望をもってたくましく生き抜くことができる力を身につけてほしい、ということです。

しかし、どんなに社会や世界が変わっても変わってはないものがあります。それは、相手の心の痛みのわかる思いやりの心。生命なきものの生命を感じることでできる心(※松本教育長に意味を確認しました—例えば、机や椅子、ホウキなど生命はないが、壊さないで大切に扱ってほしい)。人の為に尽くすことに喜びを感じることでできる心。お陰様という感謝の心。そして、失敗しても失敗をバネに次の目標に向かって力強く歩むことでできる心。このような心は持ち続けてほしいということも伝えたいことです。



これからも、学校・家庭・地域が手を携えて、子供達の可能性を引き出し伸ばすとともに、心豊かでたくましい子供を育てていただきますよう切に願っております。

と「持つべき心」は日頃から私が思っていることと全く同じで、共感しました。松本教育長のお話が終わると、自然発生的に議員各位から心のこもった拍手が沸き起こりました。松本教育長におかれましては、退官後はゆっくりと静養されて、ご自分の時間を有意義に過ごされることを切に願います。長い間の重責お疲れ様でした。